■査読論文

16ポ、明朝

-表題ASIMJ

14ポ、明朝

-区分ASIMJ

余白上下20mm

現代大量生産体制の発展に関する一考察

招待論文、書評など、種類に応じて変更する

12ポ、明朝

-副題ASIMJ

－電子機器産業を中心に－

A Study on the Development of the Contemporary Mass Production Systems in the Electronic Industry

12ポ、明朝

-著者名所属ASIMJ

工業経営大学　　　　　　　工 業 太 郎

9ポ、Century

-英文表題ASIMJ

Kogyo Keiei University　　　　　　　　Taro Kogyo

工業経営大学大学院　　　　　経 営 花 子

9ポ、Century

-英文著者名所属ASIMJ

Graduate School of Kogyo Keiei University　　　Hanako Keiei

This paper clarifies that the mass production system of various products created at the beginning of the 20th century has been changing in the electric industry today, after considering the argument on the mass production system since the 1980s, the cellular manufacturing system and contract manufacturing came to be widely utilized for the 90s in the electric industry.（以下略）

9ポ、Century

-アブストラクトASIMJ

200ワード

9ポ、Century

-キーワードASIMJ

5ワード

Key Word: Mass Production, Electronic Industry, Cellular Manufacturing System, Chandler

１．はじめに

12ポ、ゴシック

-章見出しASIMJ

19世紀から20世紀にかけて形成・発展してきた大企業、いわゆる近代企業が、20世紀末に至り、転換してきたといわれている。ここでいう近代企業とは、アルフレッド・チャンドラーJr.が特徴づけた企業、すなわち、多数の異なった事業単位から構成され、階層的に組織された俸給経営者によって管理されている企業である。(Chandler[1977] pp.1-2，邦訳（上）5頁)この階層化された管理機構を構築することで、近代企業は、財貨の流れを調整する機能を市場の「見えざる手」にかわって、管理的調整という「見える手」によって実現している。このような管理的調整はまさに、単一企業が「大量生産と大量流通を統合」し、内部化した結果、生産と流通のプロセスを流れる財貨の速度と量が増大し、複雑化したために形成・発展してきたとされる。

　　　（中略）

余白左右18mm

そこでまず本稿では、チャンドラーの大量生産と大量販売の統合としての近代企業という視点に依拠し、19世紀末以降の近代企業の形成・発展と大量生産体制との関係を明らかにする(注1)。 そのうえでこのような生産体制の動揺、およびそれと並行してみられるようになった新たな変化について考察する。（以下略）

余白上下20mm

２．近代企業の形成・発展と大量生産

アメリカでは19世紀前半までに、多数の機械・設備と労働力を一か所に集中した工場も見られるようになっていたが、それは1980年代以降の織物工業や、金属加工工業や組立工業における大量生産体制の基礎となり「アメリカ的製造方式」の先駆けとなったスプリングフィールド兵器廠のような兵器製造に限定されていた。（以下略）

10ポ、明朝（数値英文Century）

-論文本文ASIMJ

余白左右18mm

３．大量生産体制の動揺と新たな変化

1960年代後半以降、アメリカをはじめ、先進国経済の低迷と危機的状況が出現し、大量生産体制、および近代企業の動揺が言及されるようになった。（以下略）

10ポ、ゴシック

-節見出しASIMJ

４．大量生産体制の変容

４．１　セル生産方式の普及

90年代以降、日本においてセル生産方式と呼ばれる生産システムが、電気・電子産業などの組立工程を中心に普及していった。（以下略）

４．２　受託製造産業の発展

いまひとつの電子機器産業における生産体制の変化は、ブランドを有する製造企業からの製造機能の分離によって形成・発展してきた受託製造を専業とする企業の台頭である。（以下略）

５．むすび

以上で論じてきた電子機器産業における今日の生産体制の特徴を本稿の課題である大量生産体制の進化の携帯として最後に位置づけて、本稿をまとめることにする。（中略）

以上のように本稿において新たな多品種大量生産体制の形成について明らかにしてきたが、なお今後、理論面においても事例においてもより詳細な検討が必要である。（中略）　現代の大量生産体制を解明するためにも以上の論点の検討については今後の課題としたい。

注１：チャンドラーの近代企業については、（中略）この点に関しては今後の課題としたい。

9ポ、明朝

-注ASIMJ

注２：これに加えて、トヨタ自動車においては委託アッセンブラーを活用して（中略）構築されていた。

10ポ、明朝

-参考文献タイトルASIMJ

［参考文献］

秋野晶二[1994］「日本におけるＭＥ技術の開発・普及過程とその経済性」『立教経済学研究』第47巻第3号

佐藤幸人[2007] 『台湾ハイテク産業の生成と発展』岩波書店

Chandler Jr. A.D. [1977] The Visible Hand: The managerial Revolution in American Business, Belknap Press（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳[1979] 『経営者の時代（上）（下）』東洋経済新報社

10ポ、明朝（数値英文Century）

-参考文献ASIMJ